

赤い屋根まごころ基金会計報告 2019年度（2019年4月～2020年3月）

(単位：円)			
【前年度繰越金】	23,097,853	【翌年度繰越金】	17,449,657
（うち積立金）	(9,054,345)	（うち積立金）	(3,280,655)
【収入】		※積立金：寄附金の中から、基金の目的に沿った大きな支出に備えて、積立を行っています。	
寄付金 93件	3,491,534		
【支出】		上記のように使わせていただきました。	
ボランティア活動費	518,906	ありがとうございました。	
市民公開イベント費	183,686		
患者会運営費	174,041		
図書費（外来待合・医療情報の庭・入院患者図書室）	1,003,235		
医療情報の庭 患者向け図書(105冊)（※積立金より支出）	157,370		
車椅子購入費	361,684		
歩行器購入費	32,000		
病棟/外来用備品・消耗品費	998,528		
赤い屋根まごころ基金報告書印刷費	93,960		
小児用患者シミュレータ-SimJunior（※積立金より支出）	3,419,600		
ILRガ-トル台購入費(113台)（※積立金より支出）	2,196,720		
計	9,139,730		

※ご寄付いただいた方※ ご氏名の掲載は、承諾をいただいた方のみです（敬称略）

永山 一子	小池 弘文	平岡 幸子
古賀 和子	中原 玲子	平賀 馨
山中 玲子	渡邊 智美	矢野 稔
篠井 文衛	藤原 秀子	有園 兼雄
小西キヨコ	藤本 久實	
小谷 雄亮	徳川 隆子	



赤い屋根まごころ基金

ご厚志を、未来へつなげる



「赤い屋根まごころ基金」は、当法人に対して、患者さん、ご家族、地域住民の皆さまからいただいたご厚志を、適切な管理のもと、次のような使途で有効に活用することを目的としています。

- ① 地域の皆さまの健康づくり、病気の予防など。
- ② 明るく快適な病院環境にするための整備。
- ③ 病院で行う臨床研究に対する支援。
- ④ 職員の教育研修に対する支援。
- ⑤ ボランティア活動に関する支援。
- ⑥ ご寄付いただいた方のご要望事項。

【赤い屋根まごころ基金について】

当法人は、創立当初より、地域の皆さまへの社会貢献を目的の第一と考えて医療を行っています。

「赤い屋根まごころ基金」は、2004年12月の設立以来、皆さま方からのご厚志をお受けし、皆さまの病院としての活動をよりよくするために役立たせていただいています。

基金の趣旨をご理解のうえ、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

基金の取り扱いについて

1. 「赤い屋根まごころ基金」は、次のようなことに使わせていただきます。

- | | | |
|---|---|---|
| ①  地域の皆さまの健康づくり、病気の予防など。 | ②  明るく快適な病院環境にするための整備。 | ③  病院で行う臨床研究に対する支援。 |
| ④  職員の教育研修に対する支援。 | ⑤  ボランティア活動に関する支援。 | ⑥  ご寄付いただいた方のご要望事項。 |

2. 「赤い屋根まごころ基金」は、「基金制度運営委員会」で運営いたします。

3. 「赤い屋根まごころ基金」の活動内容（寄付金の受け入れ・使用状況など）については、ご寄付いただいた方をはじめ、広報いたします。

4. 「赤い屋根まごころ基金」へのご寄付は、「すべての人に平等に」という創立者の精神に基づき、誤解を招きやすい入院予定・入院中の患者さん、ならびにそのご家族からの寄付はご遠慮いただいています。個人の方の当法人へのご寄付については、確定申告により所得税の優遇措置が受けられます。当法人または法人施設のホームページをご覧ください。下記事務局にお問い合わせください。

「赤い屋根まごころ基金」のご案内

基金事務局（086-422-0210 経理課）または入院会計窓口
〒710-8602 倉敷市美和1丁目1番1号
https://www.kchnet.or.jp/oharahcf/kifu_akaiyane.aspx



公益財団法人
大原記念倉敷中央医療機構

赤い屋根まごころ基金

ご厚志を、未来へつなげる



Message from Chairman

理事長より皆さまへ

公益財団法人
大原記念倉敷中央医療機構

理事長 大原 謙一郎

平素は当法人の活動にご理解・ご協力をいただき、まことにありがとうございます。
「赤い屋根まごころ基金」は、皆さま方と共に当法人をより良いものにしていきたい、皆さま方と共に歩み、進化する医療機関でありたいという思いで始めた基金でございます。この活動は、当法人が進める社会貢献をより実り多いものとするために大きな力となっています。

基金は専門の委員会で適切に管理・運営し、快適な病院環境整備のためなどに使わせていただいています。2019年度は、昨年度に引き続き病棟で患者さんが使用する点滴棒、医師研修用小児用患者シミュレーターなどを購入しました。

今後とも、皆さま方の基金へのお気持ちを十分に考慮して使わせていただきたいと思います。ご支援・ご賛同のほどよろしくお願い申し上げます。



What we do

当法人のトピックス

2019年4月-2020年3月



倉敷中央病院附属予防医療プラザオープン
2019年6月1日

当院の高度な臨床医学と最新の予防医学を統合した、総合病院ゆえに可能な予防医療を実現します。



地域の住民を対象にしたオープンホスピタルを開催
2019年8月24日

当院各部署の有志が様々な体験型のイベントを企画し、34のブースを出展。約1,590人が来場されました。



岡岡市と地域医療連携協定締結
2019年6月5日

質の高い医療環境を確保して患者さんに適切な医療を提供するため、相互が緊密な医療連携を図ることなどを目的とした協定を締結しました。



第4世代のda Vinci Xiを導入
2019年10月

以前の機種と比較してダヴィンチのアームが細くなったことでアーム同士の接触などが解消され、手術時間の短縮も期待されます。

土曜日の一般外来を休診に 2019年7月1日～



医療費あと払いサービス導入
2019年12月

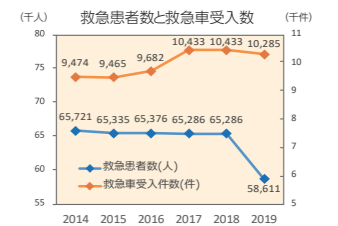
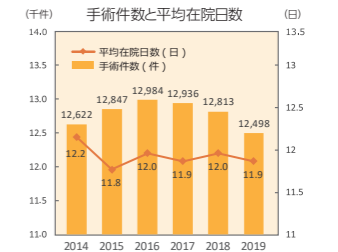
「おくすり手帳 Link」と連携したサービスで、診察後会計がなくなり月々のお支払いになります。領収証・明細書・次回予約はアプリで通知されます。

results

診療実績

—倉敷中央病院 2019年度

- 入院延患者数 382,439人 (1日平均 1,045人)
- 外来延患者数 670,889人 (1日平均 2,684人)



ご厚志をかたちに —2019年度の基金活用実績より

小児用患者シミュレーター

当院は多くの小児患者さんを受け入れています。当院では小児の蘇生演習は、人材開発センター主催の緊急気管挿管研修会のほか、初期臨床研修医の小児科ローテーション時の研修としても行われています。今回購入した小児用患者シミュレーターは6歳男児を想定しており、健康、会話のできる小児から無反応、バイタルサインのない重症患者まで幅広い症状をシミュレートすることができます。モニタリングしながら蘇生できるため、より実践に近い演習が可能になりました。



職員の教育研修への支援

病棟用点滴棒

院内に配備された点滴棒の老朽化がすすみ、旧式のタイプはキャスターが小さく安定が悪い・操作性が悪い・キーキーと騒音が出るなどの問題がありました。2019年度は113台を購入し、旧式のものとの入れ替えを行いました。新しい点滴棒は足元を重ねて収納できるほか、持ち手の握りやすさや安定性、静粛性が旧式にくらべ大幅に向上しました。

省スペースで収納



患者さんのための活用

ナースキャッチャー

当院は点滴を付けたまま出棟される患者さんが多くいらっしゃいます。ナースキャッチャーを車イスに取り付け、これに点滴棒を固定することで、点滴棒を患者さんに持たせることなく安全に車イス移送ができます。



患者さんのための活用

退院時の荷物搬送用カート

患者さんが退院される際に、荷物をまとめて玄関まで搬送するためにワゴンなどを使用しています。従来のものはサイズが小さく、何度も往復する必要がありました。患者さん・ご家族が荷物の搬送を1回で済えられ、負担が少なくなるように…と、退院時の荷物搬送用に大型ショッピングカートを購入しました。



患者さんのための活用

市民向けイベント、患者会の運営支援

当基金では市民向けのイベントや患者会などの運営を支援しています。2019年度はがんサロンぞみ会、乳がんサロンなでこ、胃手術後患者交流会いふれんず、看護の日記念行事、赤ちゃん同窓会、血液内科患者交流会 二人三脚、倉敷中央病院リバーサイド糖尿病フェスタ、糖尿病フェスティバル、生活習慣病予防フェア、緩和ケア病棟ひだまりの会、市民公開講座に支出しました。(写真：市民公開講座)



患者さんのための活用